

光化学オキシダントの測定結果（平成23年度）

光化学オキシダントは、窒素酸化物や炭化水素類が紫外線を受けて光化学反応を起こし、二次的に生成される酸化性物質で、光化学大気汚染（いわゆる光化学スモッグ）の原因物質とされ、その発生は気温、風向、風速、日射量等の気象条件に大きく左右されます。

平成23年度に、光化学オキシダントについて12測定局で測定した結果は、下表のとおりであり、いずれの測定局においても環境基準を達成できませんでした。

昼間（午前5時から午後8時まで）の1時間値の最高値が最も高かったのは、大垣南部測定局の0.122ppm でした。

なお、「岐阜県大気汚染対策要綱」に基づく光化学スモッグ予報及び光化学スモッグ注意報の発令はありませんでした。

地域	測定局名	昼間測定日数 (日)	昼間測定時間 (時間)	昼間年平均値 (ppm)	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数とその割合		昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数とその割合		昼間の1時間値の最高値 (ppm)	日最高1時間値の年平均 (ppm)	環境基準の適否 適○否×	平成22年度	
					時間	%	日	%				昼間年平均値 (ppm)	環境基準の適否
岐阜	岐阜中央	360	5,379	0.029	247	4.6	57	15.8	0.099	0.043	×	0.032	×
	岐阜南部	366	5,467	0.030	430	7.9	83	22.7	0.108	0.046	×	0.031	×
	岐阜北部	366	5,447	0.031	364	6.7	79	21.6	0.099	0.047	×	0.030	×
	各務原	366	5,446	0.031	374	6.9	85	23.2	0.109	0.047	×	0.031	×
	平均			0.030				20.8				0.031	
西濃・羽島	羽島	366	5,443	0.028	285	5.2	65	17.8	0.115	0.043	×	0.028	×
	大垣中央	366	5,460	0.031	293	5.4	70	19.1	0.098	0.045	×	0.031	×
	大垣南部	366	5,452	0.031	333	6.1	78	21.3	0.122	0.046	×	0.032	×
	平均			0.030				19.4				0.030	
可茂	美濃加茂	353	5,251	0.029	332	6.3	71	20.1	0.107	0.045	×	0.031	×
東濃西部	笠原	366	5,449	0.029	310	5.7	74	20.2	0.108	0.046	×	0.029	×
恵那・中津川	中津川	365	5,384	0.027	251	4.7	55	15.1	0.101	0.043	×	0.027	×
飛騨	高山	366	5,460	0.021	4	0.1	1	0.3	0.064	0.030	×	0.028	×
乗鞍		366	5,462	0.043	558	10.2	76	20.8	0.092	0.049	非適用	0.046	非適用
県平均				0.029				17.9				0.030	

備考) 1 県環境管理課調べ

2 昼間は、午前5時から午後8時までを示す

3 環境基準に適合しているとは、1時間値が0.06ppm以下であることを示す

4 県平均に、乗鞍測定局は含まない